

経済学部履修モデル

札幌学院大学
経済学部経済学科

経済学部履修モデル

経済学部教務委員会

1. 履修モデルの趣旨

経済学部のカリキュラムでは、プロゼミナールを除き、指定必修科目や必修科目が設定されていません。履修モデルとは、各学生が今後4年間にどのような科目を履修していけばよいのか、主要なテーマ別に開講科目をまとめたものです。各自が勉強する目的を明確にし、大学生としての教養を磨き、そして、経済と経済学に関する専門知識を取得することを目的としています。

2. 9個の履修モデル

各学生は、以下の「履修モデル」を参考にし、各自の関心分野や勉強したい内容をよく考えながら、履修計画と学習計画を立ててください。また、この冊子の各履修モデルの説明とあわせ、開講科目の詳細な内容について「履修要項」で確認してください。

なお、「履修モデル」とは別に、各群ごとの必要履修単位数、進級、卒業要件などについては必ず「履修要項」の中にある経済学部履修細則をよく読んでください。

【履修モデルとその概要】

	履修モデル名	履修モデルの概要	頁
1	経済理論(経済分析)履修モデル	価格の決定, 所得の決定さらに生産・分配・消費(貯蓄)の経済循環, および市場経済の経済分析の履修モデル	1 ~ 2
2	経済理論(政治経済学)履修モデル	市場経済や資本主義などの現代社会の経済的仕組みについて考察する履修モデル	3 ~ 5
3	財政・金融 履修モデル	経済理論を基礎として, 日本の財政(政府)や金融の現状と課題を理解することを目的とする履修モデル	6 ~ 8
4	地域経済 履修モデル	地域経済の理論を学ぶとともに, 地域経済をいろいろな側面から分析, 理解することを目的とする履修モデル	9 ~ 10
5	日本経済 履修モデル	現代日本の国民経済ならびに企業や家計が抱える問題とその解決策を世界経済との相互関連から考察する履修モデル	11 ~ 12
6	国際経済 履修モデル	今日の国際(世界)経済とその特徴・動向と主要国の経済事情について, 理論・歴史・現状の分析から考察する履修モデル	13 ~ 14
7	企業と産業 履修モデル	大規模な資本設備を保有する企業の行動やその経済社会経済厚生や資源配分の効果を分析する履修モデル	15 ~ 16
8	歴史政策分析 履修モデル	資本主義の生成・発展・変容の過程をたどり, 現代社会の形成を考察する履修モデル	17 ~ 18
9	経済データ分析 履修モデル	統計データとコンピュータを用いて, 経済理論の実証と将来の予測を目的とする履修モデル	19 ~ 20

注意事項: 各履修モデルの履修表で、網掛けになっている講義科目名は当該履修モデルのコア科目です。コア科目とは、履修モデルの核(中心)になる科目です。

この履修モデルでは、専門ゼミナールについては載せていません。専門ゼミナールでは、各分野に関連した勉強をしていますし、それをより深く勉強することができます。シラバスをみて、自分の勉強したい分野、領域に関連した専門ゼミナールを履修し、自分の研究に役立ててください。

【経済理論(経済分析)履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

身の回りで起こっている多くの経済に関する出来事は、価格や所得や生産技術や生産の編成などに関係しています：たとえば

- ・コンビニエンス・ストアで、あるスポーツドリンク財を購入しようとするとき、なぜ類似した他のドリンク財の価格(相対価格)を気にする必要があるのか？
- ・また、デパートで食器やブレザーなどのやや高価な財(商品)を購入を決めるとき、その価格だけではなく自分の所得にも気かけなければならないのはなぜであろうか？
- ・さらに、国防サービスや外交サービスなどを市場ではなく、なぜ政府部門が供給するほうがいいのか？
- ・一般的な企業の生産工程の仕組みはどうなっているのでしょうか？同時に、企業の利潤最大化行動とその行動から実現する生産編成はどうなるのでしょうか？
- ・希少な財やサービスおよび生産要素などの資源の効率的配分とはいかなる配分なのか？経済においてその効率的な資源配分を達成するために、市場価格がいかなる役割を果たすのでしょうか？

このような経済的出来事には、時間の経過と共に変化する部分と、時間の経過にもかかわらず殆ど変化しない部分があると考えられます。下に示す履修モデルに沿って科目を履修することによって、時間の経過にもかかわらず変化しない部分を説明する原理・原則から、現実に行っている多くの経済的な出来事を説明することが可能になります。時間と共に殆ど変化しないものとして、 価格の決定の原理・原則 所得決定の原理・原則 生産・分配・消費などの経済循環を説明する理論等があります。

専 門 科 目			
科目群	1年次	2年次	3年次・4年次
経済学主要科目	入門科目 (A群)	経済学入門A 経済学入門B	
	基礎科目 (B群)	経済数学	ミクロ経済学 マクロ経済学 国民経済計算論 経済学史 金融論 経済統計学 経済データ分析論
	現代経済科目 (C群)		国際経済論 公共経済学
	地域・国際科目 (C群)		応用ミクロ経済学 労働経済学 産業連関論 現代ファイナンス論 現代経済数量分析
	関連科目 (E群)		アジア経済論 アメリカ経済論
全 学 共 通 科 目			
基礎科目	コンピュータ基礎 A・B		
教養科目	A群	哲学、宗教学、倫理学、統計学、数学 A・B	
	B群	文化人類学、アジア事情 A・B	
	C群	国際問題、社会福祉論	
	総合科目群		

2. 科目群について

入門科目

経済学入門Aと経済学入門B：経済学を学ぶための動機付けをすると同時にその基礎を提供する科目です。経済学入門は専門入門科目です。

基礎科目

コア科目は**ミクロ経済学**と**マクロ経済学**と**公共経済学**。ミクロ経済学では、家計や企業などの個別主体の行動と相対価格の関係、さらに経済分析のための基礎概念を学びます。マクロ経済学では、家計部門や企業部門や政府部門の活動から、国民所得や国内総生産の水準の決定、物価水準や利子率と経済活動水準の関係を学びます。公共経済学は政府部門の意義と、その生産・消費活動の範囲および公共財の供給と資源配分について学びます。

マクロ経済学と対をなす国民経済計算論では、経済活動の水準を捉える国内総生産や国民所得の計測に関する基本を学ぶ。マクロ経済学とミクロ経済学を基礎とする国際経済論では、国際間の生産物・貨幣の取引のメカニズムを学びます。

経済数学では、経済変数を数量処理したり、経済変数間関係を明確にするための数学的手法を学び、経済統計学では、経済変数の統計的（確率統計による手法）を学び、経済データ分析論は、経済データの範囲とその処理の仕方を学びます。

現代経済科目

応用ミクロ経済学では、ミクロ経済学をさらに深く学びます。労働経済論では、労働サービスの価格（賃金率）、さらに、労働と企業との間における各種の契約について学びます。産業連関論では、ミクロ経済学とマクロ経済学を基礎とし、経済循環や各産業間の相互関連を学びます。現代ファイナンス論では、金融論およびミクロ経済学やマクロ経済学や国民経済計算論を基礎にして、家計部門や企業部門の資金調達や資金運用について学びます。現代経済数量分析では、現代の産業や企業を数量的に分析する科目です。

地域・国際科目

アジア経済論、アメリカ経済論の科目において、経済理論が具体的な経済の理解にどのように使用されているか、あるいは、経済理論の危うさについて、各学生自身が体験していただきたい。この科目群において、経済理論の威力とその脆さを学んでほしいのです。

全学共通科目

- ・社会科学の基本的に支える科目の履修を勧めます。たとえば、哲学や論理学や宗教学や文化人類学等です。
- ・また、現在の社会現象の実体を見つめることを勧めます。たとえば、アジア事情や国際問題や社会福祉論です。
- ・経済現象を数量的に捉えるための基礎力を履修することを勧めます。たとえば、コンピュータ基礎や数学A・Bや統計学です。

3. 参考文献

各科目で紹介される参考文献が完全な参考文献になります。

ここでは、コア科目の代表的な参考文献のいくつかをあげておきます。

- ・『思想としての近代経済学』（森島通夫著、岩波新書）
- ・『経済学の考え方』（宇沢弘文著、岩波新書）
- ・『諸国民の富（国富論）』（アダム・スミス著、岩波文庫）
- ・『ミクロ経済学』（奥野正寛・鈴木興太郎著、岩波書店）
- ・『入門マクロ経済学』（井堀利宏著、新世社）

【経済理論(政治経済学)履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

高校時代にお父さんが過労で入院するという経験をしたAさんは、「生きていくために仕事しているはずなのに、どうして体を壊すほど働いてしまうんだろう...」という疑問をもっていました。一年次に「経済学入門」で経済学の基礎を学んだAさんは、2年次には、「マルクス経済学」という講義で、現代社会では多くの人が自分の労働能力を商品として売って、労働能力の買い手の指示に従って労働するしくみになっていることを知りました。また、「社会政策」「労働経済論」で労働をめぐる様々な問題とそれらへの対応策について学びました。更に全学共通科目の「女性学」で家事、育児、介護の負担が女性に偏っているという性別役割分担の問題を知り、過労死に行き着いてしまうような男性の働き方と性別役割分担との間に深いかわりがあるのではないかと考えるようになりました。彼女は、このテーマを更に追求するために、3年次では、現代の社会的・経済的諸問題と現代社会の経済的なしくみとのつながりを探るという「現代政治経済学」を履修しようと考えています。

「経済理論(政治経済学)履修モデル」は、上の例のように、家族、教育、消費生活、労働、福祉、環境等にかかわる様々な社会問題や「市場経済」、「資本主義」等々の言葉で特徴付けられる現代社会の経済的しくみに興味がある人に参考にして欲しい履修モデルです。

現代社会は、経済・社会・政治・文化など、様々な領域が密接に絡み合っていて編成されています。このうち、経済的なしくみは、各国の社会が共通してもっている骨格のようなものです。経済以外の政治制度・社会的慣習などの経済以外の諸領域が筋肉や臓器のようにこの骨格に沿ってそれぞれの位置に配置されて、個性をもった各国の社会が成り立っています。多くの社会問題がバラバラにではなく複雑にからみあって現れますが、そのからみあい方は、骨格である経済的しくみがどんなものかによってある程度決まってくるといえます。そういうわけで、現代社会の抱える諸問題を解決するためには、各国・各地域の社会が共通にもっている基本的な骨格である経済的なしくみ(現代においては資本主義)を正しく理解した上で、次にこの経済的しくみ自体の国・地域ごとの個性を捉え、最終的には、それぞれの社会を政治、社会、文化、自然も含めた総体的視点から多角的・立体的に分析していくことが大切です。

そこで、まず、「市場経済」、「資本主義」などをキーワードに現代経済の基本的なしくみについて学ぶ科目を中心に、例えば、下表に示すような諸科目を履修することが望ましいと考えます。

専 門 科 目			
科目群	1年次	2年次	3年次・4年次
経済学主要科目	入門科目 (A群)	経済学入門A 経済学入門B	
	基礎科目 (B群)	日本経済史 西洋経済史	マルクス経済学 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済学史 社会政策 経済政策
	現代経済科目 (C群)		国際金融論 国際経済論 日本経済論 地域経済論
	地域・国際科目 (C群)		環境経済論 景気循環論 現代資本主義論 現代政治経済学 労働経済論
	関連科目 (E群)		都市経済論 発展途上国経済論 中小企業論

全学共通科目			
基礎科目		外国語 コンピューター基礎A・B	外国語 コンピューター基礎C・D
教養科目	A群	社会思想史 地球の科学 論理学	生命と環境の倫理学 人間の言語のしくみ
	B群	欧米史	日本近代史 自然人類学 文化人類学 社会学
	C群	くらしと経済 経済学	女性学 現代の経済
	総合科目群		

2. 科目群について

入門科目

経済学を学ぶことに対する動機付けや経済学習の基礎についての手ほどきをねらいとする科目です。

基礎科目

基礎科目からは、現在の経済的なしくみが成立するまでの事情を知ることのできる歴史科目(日本経済史、西洋経済史)、資本主義経済のしくみを分析したり、あるいは過去の研究者たちによってどのような分析がなされてきたかを学んだりする理論科目(マルクス経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、経済学史)、経済的なしくみから生じる経済問題への政策的対応について学ぶ政策科目(経済政策、社会政策)の三分野から選択してみました。1、2年次でこれらの科目を学んだ後、3、4年次で、地域経済や国際経済の基礎を学ぶという流れになっています。

現代経済科目

景気循環論は、基礎科目群で学んだ資本主義の経済的なしくみについて、景気循環という動きの中でより具体的に理解することをねらいとしています。

現代資本主義論は、経済の世界的なしくみを形成するまでに発展した現代資本主義が人類社会の今後の歩みにどのような影響を及ぼすことになるかを考察します。

現代政治経済学では、現実の経済的諸問題をいくつか取り上げ、これらの問題と資本主義のしくみとの関連を考察します。

以上の三科目は、この履修モデルの**コア科目**でもあります。

環境経済論は、資本主義的な経済のしくみが環境問題を引き起こしてしまう理由、それに対する対策等が検討されます。

労働経済論は、資本主義社会における労働問題を主として経済的側面から分析します。

地域・国際科目

都市経済論では、現代の経済活動の中心である都市を取り上げ、都市がなぜできるか、都市の地価の理論、都市の経済活動などについて学びます。

発展途上国経済論では、低開発と債務・貧困の問題を中心に、途上国経済の抱えている今日的な課題について学びます。

関連科目

商学部開講科目の中小企業論では、中小企業のマーケティング戦略を中心にその事例を学びます。

全学共通科目

全学共通科目群からは、経済関連科目のほかに、経済学的な見方だけに偏らずより広い視野から社会について考える力を養えるような科目（社会思想史、文化人類学、歴史科目など）現代社会が抱える問題を扱う科目（女性学、環境論など）の受講をお勧めします。

コア科目 以上の科目群のうち表中に網掛けで示された科目は、コア科目といって、この履修モデルの軸となる科目です。このモデルを参考にして履修計画を立てる人にはぜひ履修していただきたい科目です。

3. 参考文献

岸本重陳「新版 経済のしくみ 100 話」

八木紀一郎・宇仁宏幸「図解雑学 資本主義のしくみ」

松尾匡「はるかさんトラピート君の 入門 今どきの経済」

岩井克人「会社はこれからどうなるのか」

大谷禎之介「図解 社会経済学」

【財政・金融履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

この履修モデルは、経済理論をベースに、わが国で大きな経済問題となっている財政や金融の現状と課題について理解することを目的としています。

経済大国と呼ばれてきた日本ですが、バブル経済の崩壊により、深刻な不況が長期間にわたって続いています。この間、さまざまな景気回復の試みが行われてきましたが、思うような効果は表れていないのが実情です。むしろ、財政赤字による国の借金（国債）はどんどん大きくなる一方です。また、銀行の合併がよく報道されているように、金融システムについても安定しているとは言えません。

では、なぜこのような景気対策の失敗が生じてしまったのでしょうか？景気回復のための望ましい経済政策とはどのようなもののでしょうか？この履修モデルでは、これらの経済理論と現実との接点やギャップについても学ぶことができます。

専 門 科 目				
科目群		1年次	2年次	3・4年次
経済学 主要科目	入門科目 (A群)	経済学入門A 経済学入門B		
	基礎科目 (B群)	経済数学	金融論 マクロ経済学 ミクロ経済学 産業組織論 経済統計学 経済データ分析論	財政学 公共経済学 国際金融論 日本経済論
	現代経済科目 (C群)			現代経済政策 現代経済数量分析 現代ファイナンス論 ゲーム理論（現代産業論）
	地域・国際科目 (C群)			地方財政論
	関連科目 (E群)			
全 学 共 通 科 目				
基礎科目		コンピュータ基礎A・B・C・D		
教養 科目	A群	統計学		
	B群	日本近代史		
	C群	経済学、現代の経済、くらしと経済、社会学		
	総合科目群			

2. 科目群について

入門科目（A群）

入門科目とは、専門科目のための基礎となるもの科目です。すべてを履修する必要はありませんが、履修しない場合にはその後の専門科目の理解が難しくなる場合がありますので、できる限り履修することが望ましい科目です。

基礎科目（B群）

基礎科目とは、履修モデルの中心となる科目です。その中でも、この履修モデルでは、経済学入門A、Bとミクロ経済学、マクロ経済学の理解を前提として、**金融論**、**財政学**、**公共経済学**をコア科目として位置付けています。

金融論は、我々の日常生活における様々な金融問題についての理解と、その背景を理論的に解明することを目的とした科目です。日本の金融システムの特色や、金融政策の手段と効果などについて学びます。

財政学は、税金や公債、年金など、一国全体の財政に関連した諸問題について理論的に解明することを目的とした科目です。財政赤字の問題や、財政政策の手段と効果などについて学びます。

公共経済学は、近代経済学の応用分野に位置付けられます。公共サービスの供給や環境問題、社会保障など、市場経済だけでは対応できないさまざまな問題に対して、政府がどのように、どこまで市場に介入すべきかについて学びます。

なお、金融論や財政学の内容は、現実の経済問題と強く関連しています。公表されている経済データを正しく理解できるか？海外との国際的なお金の流れはどのような仕組みか？日本経済の現状はどうなっているか？など、経済統計学や国際金融論、日本経済論といった専門科目を履修することにより理解することも重要です。

現代経済科目（C群）

現代経済政策は、ニクソン・ショック、オイル・ショック後の経済政策を取り上げ、現実の政策がどのように組み立てられ、経済社会にどのような影響をもたらしたかを講義する。また、現代経済数量分析は、経済統計学や経済データ分析論の内容を基礎として、現代の産業や企業について数量的に分析し、理解することを目的とした科目です。

地域・国際科目（C群）

地方財政論は、財政の面から見た国と地方との関係や、都道府県や市町村の状況について理解することを目的とした科目です。最近の北海道の財政危機や市町村合併の問題などとも関連しています。

関連科目（E群）

この履修モデルでは、直接的に財政や金融の問題に関連すると思われる科目が無いためにあげていませんが、経営学総論や中小企業論など、各自で関心のあるものを選んでかまいません。

全学共通科目

現実の財政や金融の問題を、数字に基づいて正しく分析、理解するためにも、コンピュータ基礎の内容を確実に理解し、コンピュータに慣れ親しむことはとても重要です。統計学は、それらのデータ分析に際して必要な知識を扱う科目です。日本経済史や社会学は、現実の経済問題の背景を理解するために履修が望ましいと考えられる科目です。その他、経済学の基礎ということで、C群では経済関連科目をすべてあげていますが、これらは興味があるものを選んでかまいません。

3. 参考文献

【金融論関係】

家森信善（著）『教養としての金融知識』中央経済社、1999年

家森信善（著）『信頼できる銀行ってこんなに簡単にわかるんだ - 経済学者が教えてくれた! - 』中央経済社、

2003 年

斎藤精一郎（著）『ゼミナール現代金融入門』（改訂第 4 版）日本経済新聞社、2003 年

【財政学関係】

土居丈朗（著）『財政学から見た日本経済』光文社新書、2002 年

井堀利宏（著）『財政再建は先送りできない』岩波書店、2001 年

土居丈朗（著）『入門 公共経済学』日本評論社、2002 年

J. E. ステイグリッツ(著) 『公共経済学（上）（下）』（第 2 版）東洋経済新報社、2003 年

【地域経済履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

- ・ いまの北海道経済はなぜこんなに景気が悪いのか
- ・ 自分の住んでいる町はどうして衰退していくのか
- ・ なぜ東京にあのように人が集まるのか
- ・ 市町村合併は自分たちの生活にどんな影響を与えるのか
- ・ 少子高齢化は、自分の住んでいる町にどんな影響があるのか

このような疑問を持った人は多いと思います。このような問題を考える上で重要なのは地域経済を学ぶ事です。地域経済履修モデルは、この地域経済に関連する科目をあげています。

たとえば、コア科目である地域経済論を学び、産業調査演習に参加するならば、実際の地域に肌で触れ、その地域の実情を知るとともにその地域の問題点、よい点を知ることができます。そこから地域をどのように再生させるか、どのような方法をとればよいのかということを考えることができます。

その際に北海道経済論や都市経済論、農業経済論、地域開発論などで学んだ知識をもとに、上に上げた問題を考える事ができますし、経済データ分析論、現代経済数量分析で学んだデータの分析の方法によって地域をより客観的に知る事ができます。また市史を用いたりして、その地域や都市がどのように発展してきたかを勉強できます。このときには、地域経済史が役立ちます。

このほかにいろいろな地域の側面をこれらの科目をとることにより勉強することができます。参考にしてください。

専 門 科 目			
科目群	1年次	2年次	3年次・4年次
経済学 主要科目	入門科目 (A群)	経済学入門A 経済学入門B	
	基礎科目 (B群)		マルクス経済学 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済データ分析論
	現代経済科目 (C群)		地域経済論 農業経済論
	地域・国際科目 (C群)		現代経済数量分析 産業連関論
	関連科目 (E群)		地方財政論 都市経済論 地域開発論 産業調査実習 北海道経済論 地域経済史 地域経済特別講義A 地域経済特別講義B
		中小企業論	
全 学 共 通 科 目			
基礎科目			
教 養 科 目	A群	統計学	
	B群	北海道史、アジア史、アジア事情A・B、日本近代史、人文地理学、欧米史	
	C群	経済学、現代の経済、くらしと経済、北海道社会論	
	総合科目群		

2. 科目群について

入門・基礎科目

入門・基礎科目群は、入門・基礎科目は、専門科目の基礎となる科目です。ミクロ経済学、マクロ経済学、マルクス経済学は基礎的な理論の科目です。すべてとる必要はありませんが、とらない場合にはその後の専門科目の理解が難しくなる場合がありますので、できる限り履修することが望ましい科目です。

現代経済科目群、地域・国際科目群

この科目群の中で地域経済論は、地域経済を勉強する上で最も基礎的となる重要なコア科目です。地域経済を研究テーマとする方には、必修に近い科目です。できれば3年生からの履修を望みます。

その他の科目は地域経済の個別の問題を扱う科目です。自分の興味に応じて履修してください。すべて履修する必要はありませんが、できるかぎり履修してください。

地方財政論は、財政の面から国と地方の関係、都道府県や市町村の状況を扱う科目です。現在進んでいる地方分権、三位一体の改革などを勉強できます。

都市経済論は、都市を対象にして地域経済をとらえる科目です。今の経済生活は都市を中心に行われています。その面から重要な科目です。

北海道経済論は、北海道経済を対象として北海道経済の歴史やその経済構造について講義します。皆さんの住んでいる地域について知るためには必須の科目です。

地域開発論は、我が国の地域開発あるいは地域開発政策を取り上げ、その地域への影響、各種政策の有効性を考える。

地域経済史は、ある地域を取り上げ、その地域の歴史について講義するとともに、そこで起こった経済史の上での出来事が人々の暮らしと暮らしの場である地域がどのように変化していったかを講義します。

農業経済論は、農業という側面から経済をとらえる科目で、地域経済、とりわけ北海道と密接に関連しています。

産業調査演習は、他の科目と異なり、ある地域、たとえば紋別市、を対象として分析するとともに、実際にその地域を訪問し、聞き取り調査などを行い、その地域に対する理解を深める科目です。机の上だけでなく自分の目で、自分の足で地域を調べます。

経済データ分析論、現代数量分析は、データの分析を扱う科目で地域経済のデータを処理するには必要な科目です。Excel などソフトウェアの基礎とそれを使った分析手法を講義と実習で教えます。

全学共通科目

経済学の基礎ということで全学共通の経済関連科目をあげていますが、これらは興味があるもののみを選んでかまいません。そのほかに北海道に関する科目である北海道社会論、北海道史をあげました。しかし、地域は何も北海道ばかりではありません。できればアジアやヨーロッパ等の歴史も学んでください。

3. 参考文献

・入門書

山田浩之（著）『地域経済学入門』有斐閣

中村・田淵（著）『都市と地域の経済学』有斐閣

古厩忠夫（著）『裏日本』岩波新書

関満博（著）『フルセット型産業構造を超えて』中公新書

宮本他（著）『地域経済学』有斐閣

【日本経済履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

このモデルの主眼は、現代日本の国民経済全体と企業・家計がかかえる問題と打開のあり方を、グローバルな環境変化との相互関連のなかで考察することにあります。それにはまず、国民経済・企業・家計・海外関係の変化をよく知ることです。しかし、現状は歴史の大河、それも世界変貌の一コマですので、歴史的・国際的な視点が大切です。しかも、資本主義の市場原理が現代にも貫徹していますから、原理的な視角も大事です。

もうひとつ、経済社会が政治や法律、文化にも大きく左右される側面のあることも踏まえて下さい。ものごとを、たえず複眼的に観察するセンスも身につけて欲しいのです。

したがって、このモデルでは、**日本経済論**と**景気循環論**をコアとし、それに密接に関連する理論・歴史・国際環境・法律分野の科目群と、複眼志向に資する科目群を配置しました。

専 門 科 目				
科目群		1 年次	2 年次	3 年次・4 年次
経済学主要科目	入門科目 (A 群)	経済学入門 A 経済学入門 B		
	基礎科目 (B 群)	西洋経済史 日本経済史	マルクス経済学 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策 金融論 社会政策	日本経済論 国際経済論 国際金融論 財政学
	現代経済科目 (C 群)			景気循環論 現代資本主義論 現代政治経済学 現代経済政策
	地域・国際科目 (C 群)			アメリカ経済論 アジア経済論
	関連科目 (E 群)	民法 A 民法 B	商法 A 商法 B	
全 学 共 通 科 目				
基礎科目				
教養科目	A 群	地球の科学	社会思想史	
	B 群	人文地理学	アジア事情 A・B	
	C 群	経済学 現代の経済 くらしと経済	日本国憲法 平和学 環境論	女性学
	総合科目群			

2. 科目群について

入門科目

プロゼミナール、経済学入門A・Bで、何か一つでも二つでも経済問題とりあげてください。

基礎科目

日本経済論は、この履修モデルのコア科目です。

日本経済史・西洋経済史は、日本の経済問題の由来を読み解く歴史的な流れをつかむのに大切です。

マルクス経済学とミクロ・マクロ経済学は、経済社会の仕組みの根本を理解するのに重要です。

日本の経済問題を国際的な繋がりの中で見ると、国際経済論・国際金融論を重視してください。

日本経済の現状を改革するあり方を考えるには、上記のほか、財政・金融の仕組みや社会福祉面の理解も大切です。経済政策・財政学・金融論・社会政策を重視してください。

現代経済科目

景気循環論・現代資本主義論・現代政治経済学・現代経済政策は、この履修モデルにとり、基礎科目なみに、基礎的な重要性があります。とくに**景気循環論**を重視してください。

地域・国際科目

対外関係の重要性を考慮して、とくにアメリカ経済論、アジア経済論を重視しましょう。

関連科目

民法、商法は、経済問題を扱うのに、人間生活にとっての水や空気なみに大切な知識となります。

全学共通科目

日本経済の環境保全型の発展（Sustainable Development）のためには、どうしても世界平和の確保、自然と社会の共生、両性の平等が不可欠です。しかも、日本は双方の人类的課題に特別な責任を負っています。日本国憲法、環境論、平和学、女性学を薦める所以です。

また、わが国社会の複眼的な考察のためには、異なる思想、異文化、生命の根源などの切り口が大切になってきます。

3. 参考文献

佐々木洋の分担執筆『市場社会の警告』現代思潮社

三和良一『概説日本経済史・近現代』東大出版

金森久雄『日本経済読本』東洋経済新報社

中村隆英『昭和経済史』岩波書店

植松・小川『日本経済論』ミネルヴァ書房

橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書

神野直彦『二兎を追う経済学』講談社 新書

嶋中雄二『日本の景気』角川書店

【国際経済履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

国際（世界）経済は、いま大きな変動の中にあります。それは、とくに冷戦後の1990年代以降にみられる特徴でもあります。つまり、一方では、グローバル化（地球化）という流れが進行中で、経済の市場化・自由化・開放化が、先進国はもちろん途上国をも巻き込んでいるのです。

しかし、他方では、リージョナリゼーション（地域化）という、第二次世界大戦前のブロック経済化のような流れ、たとえば、二国間あるいは多国間のFTA（自由貿易協定）が、他国への排除・差別化を助長する傾向も進行中です。

こうした、今日の国際経済における二大潮流の同時進行化を理解するには、そこに到る歴史的な経緯、それを導いた理論的枠組み、そして実態上のプラスとマイナスの評価などが、問われなければなりません。

こうした突出した今日の問題も、国際経済上の主要な課題、つまり国際貿易（モノ）と国際金融（カネ）に関する理解と検討を必要事としています。さらに、これらの国境（国家）を越えての日常的な移動は、国家の「退場」と同時に、国家の新たな「登場」をも意識させるものでしょう。

こうした事情から、国際的な政治経済関係の重要性と緊密度が、より一層加速することになります。したがって、アメリカ、ヨーロッパ、さらにはアジア、ラテンアメリカ、アフリカ等々の先進国と途上国の国々や地域の実情への理解と関心の高まりも、当然要求されてくるに違いありません。

以上のような、世界の主要な動向と各国・各地域の特殊性や課題とを、総括（全体）的に把握し、いわば「世界の中の日本」のあるべき姿を考察するように努めたいと思います。

専 門 科 目				
科目群		1年次	2年次	3年次・4年次
経済学 主要科目	入門科目 (A群)	経済学入門A 経済学入門B		
	基礎科目 (B群)	経済数学	ミクロ経済学 マクロ経済学 マルクス経済学 金融論 経済データ分析論 西洋経済史	国際経済論 国際金融論
	現代経済科目 (C群)			現代ファイナンス論
	地域・国際科目 (C群)			アジア経済論 アメリカ経済論 ヨーロッパ経済論 発展途上国経済論 地域・国際特別講義A 地域・国際特別講義B
	ゼミナール その他の科目 (D群)			外国書講読A 外国書講読B
	関連科目 (E群)			
全 学 共 通 科 目				
基礎科目				
教養科目	A群	世界の言語と日本語、言語文化論		
	B群	アジア史、欧米史、イスラム史、アジア事情A・B 国際文化I・II		
	C群	現代の政治、国際問題、現代の経済、平和学		
	総合科目群			

2. 科目群について

入門科目

経済学入門は経済学全般の、経済数学は経済学の統計的手法の入門科目です。

基礎科目

国際経済論と国際金融論は、このモデルの中心をなす科目です。前者は、生産（分業）、貿易、為替、GATT・WTOなどの対外経済関係といった国際経済の総論であり、後者は、円とドル、IMF体制、金融（通貨）危機などの対外金融関係を、各論的に論じます。

ミクロ・マクロ・マルクスの各経済学は、それぞれの立場からの経済理論の基本を、経済データ分析論は、経済問題の統計的分析の手法を、西洋経済史、経済政策は、歴史的な観点を重視した今日の経済問題の理解を、そして、外書講読は英語のテキストによる経済学と経済問題の把握を、学びます。

現代経済科目

現代ファイナンス論、金融論は、国内・国際を問わず、今日のグローバル経済の中でも、とくに金融問題が突出していることから、それを重視したものです。

地域・国際科目

この科目は、このモデルの主要な科目群であります。

アジア経済論は、いま、めざましく発展するアジア経済の全体と主要国（地域）の動向を、アメリカ経済論は、今日、世界唯一の覇権国家でもあるこの国の経済の過去と現在を、ヨーロッパ経済論は、EU統合でアメリカに対抗する欧州地域の活力を論じます。

また、発展途上国経済論は、途上国の開発、貧困、人口、債務などの歴史と現状を、地域・国際特別講義は、特定地域の経済事情などを論じます。

関連科目

全学共通科目

A群の科目：国際事情を知るためには、まず、なによりも言語への関心と理解が必要となります。ここでは、言語の比較を学びます。

B群の科目：ここでは、世界各地（西洋と東洋）の社会・文化事情の歴史と現状を学びます。

C群の科目：ここでは、国際的な政治・経済・社会の問題、戦争と平和の問題など、国際関係の今日的状況を学びます。

3. 参考文献

西川 潤 『世界経済入門』（第3版）岩波新書

木村福成 『国際経済学入門』日本評論社

上川孝夫ほか編 『現代国際金融論』（新版）有斐閣

三木敏夫 『アジア経済と直接投資促進論』ミネルヴァ書房

高懸雄治 『ドル体制とNAFTA』青木書店

春田素夫編 『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房

田中素香ほか 『現代ヨーロッパ経済』有斐閣

【企業と産業履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

新聞などで知られている企業のおおくは競争あるいは寡占状態（ある産業において少数の企業が競争している状況）で行動している。いくつかの具体例をあげます：

- ・北海道電力が地域に一つしかない電力会社、すなわち地域独占体として存続できるのであろうか。
- ・また、キリンビールなどのビール業界は数社が競争する寡占状態にある。その寡占状態が持続するのか。
- ・電話などの通信サービス産業の躍進と、インターネット電話の普及がその利用者である家計にどのような厚生上の利益をもたらすのであろうか。
- ・寡占状態あるいは独占的状态で活動する企業金融とその活動はどうなっているのであろうか。

この履修モデルのねらいは、大規模な固定資本を保有する企業の生産活動やその金融、また、寡占状態下での企業戦略が産業組織にどんな影響をもたらすかを理解することです。

専 門 科 目			
科目群	1 年次	2 年次	3 年次・4 年次
経済学主要科目	入門科目 (A群)	経済学入門A 経済学入門B	
	基礎科目 (B群)	経済数学	産業組織論 ミクロ経済学 マクロ経済学 マルクス経済学 金融論 経済統計学 経済データ分析論 インターンシップ
	現代経済科目 (C群)		ゲーム理論(現代産業論) 応用ミクロ経済学 労働経済論 産業連関論 景気循環論 現代経済数量分析 現代ファイナンス論 現代経済政策
	地域・国際科目 (C群)		産業調査演習 地域開発論 発展途上国経済論
	関連科目 (E群)		
全 学 共 通 科 目			
基礎科目	コンピュータ基礎A・B		
教養科目	A群	哲学、論理学、宗教学、生物学、物理学、統計学、数学A・B	
	B群	文化人類学、アジア事情A・B	
	C群	現代ビジネス論	
	総合科目群		

2. 科目群について

入門科目

経済学入門Aと経済学入門B：経済学を学ぶための動機付けすると同時にその基礎を提供する科目です。経済学入門は専門入門科目です。

基礎科目

このモデルの**コア科目**である**産業組織論**では、不完全競争経済が概説されます。特に、独占企業の行動や寡占化での企業行動が説明されます。また、マクロ経済学と国民経済計算論では、企業活動と付加価値の生成の関係などの経済をマクロ的に見るための基本的な考えを学びます。ミクロ経済学とマルクス経済学では、企業行動の利潤最大化行動の意味や費用分析や価格分析の基本を学びます。金融論では、貨幣や資産の経済活動に持っている基本的な意味を学び、さらに、現代ファイナンス論の基礎を学びます。

経済数学では、経済変数を数量処理したり、経済変数間の関係を明確にするための数学的手法を学びます。経済統計学や経済データ分析論では、経済データとその処理の仕方を学習します。インターンシップでは、直接的に生産活動を経験します。

現代経済科目

コア科目である**ゲーム理論(現代産業論)**では、現代産業が寡占化にあることと、さらに企業の寡占状態における企業活動の戦略的行動の産業組織に与える効果や経済の厚生に与える効果などを学びます。また、**コア科目**である**応用ミクロ経済学**では、家計と企業の行動をより詳しく分析する科目で、ミクロ経済学をより詳しく学びます。産業連関論や景気循環論では、経済循環や経済変動や各産業間の相互関係を学びます。労働経済論では労働と企業との間における各種の契約が、産業や国民経済にどのように影響するのか学びます。現代経済数量分析では、企業や産業に関することを数量的分析します。

地域・国際科目

コア科目である**産業調査演習**では、事例から個別企業あるいは個別産業の実体について学びます。地域開発論や発展途上国経済論では、企業の寡占状態における企業活動が、産業や地域にいかなる影響を与えるかを学びます。

全学共通科目

- ・社会科学の基本になる人文科目を勧めます。たとえば、哲学や論理学や宗教学や文化人類学等です。
- ・現在の社会現象の実体を見ることを勧めます。たとえば、国際問題やアジア事情や現代のビジネスです。
- ・産業組織論やゲーム理論の理解に助けになる科目として、生物学や物理学を勧めます。
- ・経済現象を数量的に捉えるための基礎力を履修することを勧めます。たとえば、数学A・Bや統計学やコンピュータ基礎です。

3. 参考文献

コア科目に関する代表的な参考文献をあげておきます。

- 『思想としての近代経済学』(森島通夫著、岩波新書)
- 『経済学の考え方』(宇沢弘文著、岩波新書)
- 『日本の企業システム：第1巻 企業とは何か』(伊丹 敬之・加護野忠男・伊藤元重編、有斐閣)
- 『企業の経済学』(青木昌彦・伊丹敬之著、岩波書店)
- 『日本の産業システム： 「機械産業の新展開」』(森谷正規編、NTT出版)
- 『日本の産業システム： 「サイエンス型産業」』(後藤晃・小田切広之編、NTT出版)

【歴史政策履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

資本主義がどのような生成・発展・変容の過程をたどりつつ、現在ある社会を形成するに至ったのかを考察するのが、経済学部で学ぶ歴史科目です。それを基礎にしながら、これからどのような社会を創りあげていくのかを考察するのが経済学部で学ぶ政策科目です。

この履修モデルでどんなことが学べるか一例をあげて説明しよう。

たとえば、自分が生まれ育った町や村がどのように形成され、発展してきたのか、そしてこれからどうなっていくのかについて深く考えてみたいと思ったとしましょう。その場合、まずは日本経済史、西洋経済史で大きな経済の流れをおさえたうえで、そのなかで自分の町や村の歴史がどうかかわっているのかを考えなければなりません。その関わり方を経済学的に解き明かすためには、地域経済史を学ぶだけでなく、基本的な経済理論にくわえて、その地域に関する科目も必要になって来ます。

専 門 科 目				
科目群		1年次	2年次	3年次・4年次
経済学 主要科目	入門科目 (A群)	経済学入門A 経済学入門B		
	基礎科目 (B群)	西洋経済史 日本経済史	経済学史 マルクス経済学 経済政策 社会政策	日本経済論
	現代経済科目 (C群)			現代資本主義論 現代経済政策 労働経済学 現代政治経済学 景気循環論
	地域・国際科目 (C群)			地方財政論 地域経済史 北海道経済論
	関連科目 (E群)		中小企業論	
全 学 共 通 科 目				
基礎科目		外国語 コンピュータ基礎A・B	外国語	
教養 科目	A群	社会思想史		
	B群	日本近代史，北海道史，欧米史，人文地理，		
	C群	環境論，社会学，くらしと経済		
	総合科目群			

2. 科目群について

入門科目

経済学入門 A と経済学入門 B：経済学を学ぶための動機付けすると同時にその基礎を提供する科目です。

基礎科目

基礎科目に位置づけられる西洋経済史，日本経済史，経済政策，社会政策はコア科目になります。

西洋経済史と日本経済史で経済の大きな流れを歴史のおさえる。経済政策や社会政策ではどんな社会を作り上げていくかを考察する。まず第一に、現在目の前に展開する社会をどうとらえるかが大変に重要な作業になります。さらに、その現実の社会と対話するためには、基本的な経済学入門科目である経済学入門 A，経済学入門 B だけではなく、マルクス経済学や日本経済論を学部必要があります。その上で、現状分析に進むことになります。

現代経済科目

現代経済科目である現代資本主義論はコア科目です。現状分析的な科目である現代経済科目群では、現代経済政策，労働経済学，現代政治経済学，景気循環論などの科目を履修して学ぶ必要があります。これらの現状分析的な科目も、歴史あるいは政策的なアプローチをとっているものがあります。

(現状分析的な科目は、3年次・4年次配当なので、1年次・2年次で学習するなかで、自分の問題関心と相談しながら、シラバスをよく読んで、選択しましょう。)

地域・国際科目

地域経済史，地方財政論の科目で、特定の地域の歴史的事実やその地域の財政や、およびその地域と中央のつながりについて学ぶことができます。

現状分析を深く展開するためには、その地域ととくに関連の深い分野に関する科目、たとえば北海道経済論なども履修することが必要になってくると思います。

関連科目

全学共通科目

基礎科目では、基本的な「読み書き」の力を養成しておいて下さい。とくに、諸外国の経済を対象に学んでいこうとするならば、ある程度の外国語の力を養っておく必要があります。教養科目では、C群から経済学を中心に幅広く社会科学の科目を履修して視野を広げるとともに、B群から「 史」「 の歴史」といった科目を選んで、歴史的な見方を身につけておくといいでしょう。

3. 参考文献

E・H・カー『歴史とは何か』岩波新書

【経済データ分析履修モデル】

1. この履修モデルのねらい

経済で生じている現象について分析する場合には、いろいろなデータを参考にして分析を行います。ピールの消費量と気温、価格と需要量といった二つの変数の関係にどのような関係があるか、などということ进行分析するには統計学の知識を使います。その際にコンピュータを使用することは不可欠となっています。経済学においては、経済の理論的な関係式を統計データによって実証するという計量経済学が確立されています。この履修モデルは、経済理論の関係式を統計的に実証するという目的の下で、コンピュータを用いて現在の経済や将来の予測を行います。この履修モデルでは、コンピュータを用いた実習を含む科目（経済データ分析論、現代経済数量分析）に加え、概念を理解するための科目（経済統計学）が必須科目になります。また、分析を理解するだけでなく、扱おうとしているデータの特徴を把握するためには経済の知識も必要となります。分析対象はさまざまな経済分野に応用できますので、さまざまな関連科目を履修するとさらに分析していることが把握しやすくなります。

たとえば、家計調査などで所得と消費支出の公表データを入手して、所得と消費の関係をコンピュータで分析し、理論的な関係式の実証や関係の度合いを測って、経済の動きについての理解を深めます。

専 門 科 目				
科目群		1年次	2年次	3年次・4年次
経済学 主要科目	入門科目 (A群)	経済学入門A 経済学入門B		
	基礎科目 (B群)	経済数学	ミクロ経済学 マクロ経済学 国民経済計算論 金融論 経済統計学 経済データ分析論	国際経済論 国際金融論 日本経済論 財政学 公共経済学 農業経済論
	現代経済科目 (C群)			景気循環論 産業連関論 現代経済数量分析
	地域・国際科目 (C群)			都市経済論 産業調査演習
	関連科目 (E群)			
全 学 共 通 科 目				
基礎科目		コンピュータ基礎A・B	コンピュータ基礎C・D	
教養科目	A群	数学A・B 統計学 言語と数理		
	B群			
	C群	現代の政治 社会学 現代ビジネス論		
	総合科目群			

2. 科目群について

入門科目

入門科目は経済学部の専門科目を学ぶ上で必要となる科目です。経済学入門A、Bは経済の考え方やその基礎を講義する科目なので、履修することが望ましい科目です。

基礎科目

基礎科目は、専門科目の基礎となる科目です。その中で数量分析に関連する科目は経済数学、経済統計学、経済データ分析論があります。数量分析は経済に限らずさまざまな分野にも応用できる科目です。しかし、経済データを分析するためにはデータの特徴やその意味を把握する必要があります。経済学部で特にデータを用いる科目を挙げました。すべてを履修する必要はありませんが、多くの科目を履修することを望みます。

この履修モデルで必須科目となる経済数学、経済統計学、経済データ分析論について内容を紹介します。

経済数学...経済で用いられる数学を扱う科目です。情報処理分析する場合には数式処理が必要となってきますので、概念などの基本的知識はしっかり理解する必要があります。

経済統計学...データを分析する際の考え方や経済データの特徴などを講義し、分析する考え方を理解する科目です。

経済データ分析...データ分析で用いられる EXCEL の基本を習得することを目的としています。コンピュータを用いて行います。また簡単なデータ分析を行っています。

現代経済科目、地域・国際科目

現代経済科目群(C 群)の中で現代経済数量分析は、情報処理分析を勉強する上で最も重要な科目です。また、この科目がこの履修モデルの到達点ともいえます。さらに、その他の科目も履修することにより分析範囲が広がります。

この履修モデルで必須科目となる現代経済数量分析について内容を紹介します。

現代経済数量分析...経済データに対する実践的な分析を、コンピュータを用いて行います。コンピュータリテラシは当然必要ですが、それ以外にも経済学の考え方や分析に対する理解が必要になります。

関連科目

全学共通科目

数量分析を行う場合、どうしてもコンピュータリテラシ(コンピュータを扱う能力)が必要になります。全学共通で履修必修になっているコンピュータ基礎A、Bはもちろんのこと、コンピュータ基礎C、Dも履修することを勧めます。

3. 参考文献

管 民郎(著)『多変量解析の実践 上・下』 現代数学社

白砂堤津邪(著)『例題で学ぶ初歩からの計量経済学』 日本評論社

田中勝人(著)『経済統計学』 岩波書店

小牧泰之(著)『経済のことが面白いほどわかる本 統計データの読み方編』中経出版

唯是康彦(著)『Excel で学ぶ経済統計入門』 東洋経済新報社

細井真人(著)『インターネット経済統計学』 オーム社

金明哲 中村永友 山田智哉(共著)『例題と演習で身につけるデータ解析の基礎』 ムイスリ出版

札幌学院大学
経済学部履修モデル

発行 2006年4月1日
札幌学院大学経済学部
〒069-8555
北海道江別市文京台1-1番地
TEL 011-386-8111(代表)
<http://www.sgu.ac.jp>